

登戸：多摩丘陵への「のぼり口」にあたることに由来、説が有力で「戸」はところの意。永禄2年(1559)の「小田原衆所領役帳」には「多波川北、駒井登戸---」と記載され当時は多摩川の北岸であった。駒井とは狛江。

【二ヶ領用水】

稲毛、川崎の二ヶ領に、慶長16(1611)年家康の命により小泉次太夫吉次が指揮し、14年に及ぶ工事の未完成、その後整備、改修が加えられ全長32km60ヵ村の水田2007町を潤す一大農業用水。正式な河川の名称は、久地地内から円筒分水までを二ヶ領本川、円筒分水から下流を二ヶ領用水と呼ぶ。

【川崎市緑化センター】 (面積約1.3ha 昭和52年開園)

川崎の市民の木ツバキ約300種をはじめ、サツキ、ボタン、フジ、ロウバイ、ハギなど四季を通じて様々な花が咲く市内唯一の「植物園」。園内には、二ヶ領用水宿河原線が流れている。

【円筒分水】 (国登録有形文化財) 昭和16年完成

中野島、宿河原の二つの取水口からの水は久地で合流、サイフォンの原理を応用し平瀬川の下をくぐり、円筒分水でその切り口の比率に応じて、川崎堀、根方堀、六ヶ村堀、久地二子堀に分水。二重の円形の形が特徴。外側は直径16m。内側8m。

久地：溝の口村の口(入口)のケチがクジに、また河岸がクジ(えぐ)られたことに因む、また比丘尼をまつた(久地不動尊)がありその比丘尼に因むものか、その転訛等諸説あり。

溝口：平坦なこの地には多摩川や平瀬川からの分流水路が網の目のように流れ、その水路の水口に位置したのが「溝の口」の地名の由来。(高津村風土記稿) 東急は「溝の口」、南武線、郵便局は「溝ノ口」、風土記稿は「溝之口」等標記に違いがあるが、公式文書は「溝口」。

高津：大阪高津宮付近の景観に似ているとする説。上流の渡し場を意味する高津にちなむ説等あり。

二子：現二子塚児童公園には、約300坪と180坪ほどの二つの古墳ともいわれる塚があった。その二子塚に因むといわれている。